



かどや通信

第32号

発行日：令和元年5月吉日

発行行：かどや保存会

発行責任者：寺田 直喜／編集：廣野 克子

かどやあれこれマップ完成記念！ 山本周五郎の『扇野』を文学散歩

かどや文学散歩「山本周五郎の人間劇場」『扇野』を読む」と題したセミナーが三月三十日に開催され、文学好きの三十七名が参加した。

講師の河原徳子氏は、津市の三重県総合文化センターで「朗読文学サークルパティオ」を主宰しており、平成二十年に始まった「源氏物語を原文で読む」は現在も続く人気講座で、当セミナーにも津市や四日市市、松阪市等からも河原ファンが駆けつけた。



今回のテーマである『扇野』は、周五郎の鳥羽三部作（『彩虹』に『初蕾』）の一つで、登場人物の一人である鳥羽の豪商・角屋金右衛門はかどやの当主（廣野藤右衛門）がモデルといわれていること

から、かどやでは『扇野』の舞台となった樋の山（現在の扇野）のあ



たりとかどやを結び「かどやあれこれマップ」を作成。今回のセミナーは、その完成を記念して企画された。

河原氏はまず、周五郎の生い立ちや人となりを紹介。『日本婦道記』（昭和十八年）での直木賞をはじめ、生涯を通じていっさいの権威ある受賞を辞退するなど、徹底して権威を嫌っていたことや、喧嘩早い一面等もエピソードを加えて紹介した。

『扇野』については、周五郎の作品の中でも女性読者が最も好きな一作とされていることや、彼の作品の中では珍しい甘く叙情的なラブロマンス小説だと評した。その後、河原氏は物語の一部を朗読し、参加者全員による群読も行った。パワフルで分かりやすい講演は大好評で、参加者は「いい時間を過ごせた」「参加してよかった」等と感想を述べ合っていた。

昼食後は、河原氏が「鳥羽の情景がとても美しく描かれている」と話

した樋の山に移動し、かつて風待ち港としてにぎわった鳥羽灣を眺めて当時を偲んだ。

その後、鳥羽ガイドボランティアの会のメンバーの案内で、明治天皇が明治十年に宿泊された常安寺や鳥羽みなとまち文学館（江戸川乱歩館）、真珠王・御木本幸吉の生家跡等を見学した。参加者は「もう一度、ゆっくり鳥羽を歩きたい」と、鳥羽を満喫したように話していた。

祝「令和」

改元を期に万葉集を学ぶ

〜かどや文学講座再開！

「平成」から「令和」への改元を期に、にわかに万葉集への関心が高まっている。なかで、古典文学に滅法強いかどや主席学芸員の力三さんを「説き落し、かどや文学講座「野の花と万葉の会」を六月から開講することになった。力三さんの文学講座は、平成二十九年の「古典文学最初の一步」源氏物語を「ちよつと紐解く」以来だ。

今回は万葉集の中でも野の花を詠ったものに焦点を当てるため、まゆみ塾のまゆみさんが毎回、巷では雑草とも呼ぶ可憐な野の花を飾ってくれることになった。詳細は、6月度の行事案内を「参照」ください。

**歓迎準備万端!!
豪華客船、続々入港!**

大型クルーズ船による船旅がブームになっており、古くから天然の良港だった鳥羽市では、伊勢市や志摩市等と共に鳥羽港クルーズ船誘致受入協議会(会長・中村鳥羽市長)を発足させ、今年には日本船籍に加え、外国の大型船も六回寄港する予定。

ダイヤモンド・プリンセス号

英国船籍の大型クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」(一五、八七五トン)は四月四日、鳥羽港に入港した。

乗客は約二千七百人。大半はオーストラリアや欧米からのツアー客で、約八百人は観光バスを利用して伊勢神宮や志摩・賢島等に向かったが、大半は鳥羽市内に留まり、城山公園をはじめ、町歩きを楽しんだ。



同船は昨年十月九日に鳥羽に初入港したが、火曜日だったため、市内の飲食店等の多くが定休日、かつ入港情報

が徹底されていなかったため、歓迎ムードが乏しく、がっかりした方もいたようだ。そこで、かどやでは鳥羽で楽しい思い出を作ってもらおうと観光協会や商工会議所等と連携し、三丁目から四丁目のなかまちに特化したガイドマップ制作に協力し、ツアー客に配布してもらった。



かどやでは当日、茶道や着付けの体験をはじめ、和服の生地を使った日本的な手作り土産コーナー

も設置し、琴の演奏も行った。

城山公園は満開の桜に加え、同船が停泊する鳥羽湾が一望に見渡せる絶好のロケーションのため、ツアー客でこった返したが、鳥羽港から距離のあるかどやまで足を運ぶ人は少なかった。ただし、商工会議所等が作成した鳥羽街歩きマップを携えたツアー客は近鉄中之郷駅や糍屋付近まで大勢歩いているとの情報が入り、かどやスタッフとボランティア参加してくれた鳥羽高校生たちが中之郷界隈に向いて案内を行った。その結果、約五十名がなかまちを散策し、かどやには三十七

名が入館した。ただ、船の停泊時間が短かったため、茶道体験にチャレンジしたのは十五名に留まった。しかし、かどやも



庭の桜は満開で、スタッフはおもてなしの心溢れる対応をしたため、入館された方々は満足の様子だった。

同船はこの後、姫路市や高知市、韓国釜山を経て、四日市市に入港し、四月十一日に横浜に帰港する。

Europa(ヨーロッパ)

五月十日にはドイツの会社が運営するマルタ船籍の「Europa 2」(四二、八三〇トン)が入港した。

ドイツ語圏の人々を中心に約四百五十人が乗船しており、半数は観光バスで伊勢神宮や海の博物館、海女小屋等を訪れた。停泊時間が前回のダイヤモンド・プリンセス号より約三時間長いので、ツアーに出かけない人たちはゆっくり鳥羽を散策するのではと期待し、かどやでは体験は茶道のみとしたものの、歓迎準備に怠りはなかった。今回も道案内とかどやへの誘導を行うため、スタ

ップと鳥羽高校生が中之郷まで出向いたが、今回は下船する人が少なく、中之郷界隈までやって来る人は数える程で、なかまち方面に向う人は十人にも満たなかった。



かどやに入館したのは、同船のクルー二人のみ。しかし、「よくそここまで来てくれてまし



た!」と大歓迎し、お点前の練習は筋肉痛が起ころのではと心配になる程体験してもらった。もう一人は同船専属のピアニストで大正時代のオルガンで「エリーゼの為に」を演奏してくれた。

かどやで大歓迎を受け、鳥羽ならではの体験をした二人の乗る船は、鳥羽出港後、沖縄、台湾、ベトナムを経て、シンガポールに向う。

**多様なジャンルが楽しめる！
かどや屋下がりコンサート**

かどや屋下がりのコンサートは、平成二十五年九月二十二日にスタートし、平成三十一年四月で八十一回を数えた。毎月様々なジャンルのグループが登場するが、三月には二胡とジャズ、四月には小唄教室の発表会が行われた。

《柔らかな二胡の音色に包まれて》

北河香代子さんと山出秀子さんによる「二胡 春先ライブ」が三月二十三日に開催された。



二人は「璃羅」というコンビ名でも活動しており、オープニングには「むくら」「や」「いつでも夢を」を、エンディングでは「ムーンリバー」や「花は咲く」等をふたりで演奏。また、それぞれに得意の曲を六曲ずつソロで情緒豊かに奏でてくれた。

春らしい選曲と二胡の柔らかな音色が相まって、優しい時が流れた。

《宮崎トリオ更にパワーアップ!》

宮崎義明さん率いるジャズトリオが三月三十一日、「懐かしの映画音楽をジャズトリオで③」と題したコンサートを行った。同トリオの出演は三回目だが、



今回はポーカーのMINAMIさんが加わり、チャップリンが作曲し、自身が監督・主演した映画「モダン・タイムズ」のテーマ曲「スマイル」をはじめ、「黒いオルフェ」や「ジョージア・オン・マイ・マインド」「センチメンタル・ジャーニー」等、往年のジャズ・ファンにはたまらない曲が演奏された。

《成果が光る小唄おせうい会》

平成二十八年一月に開講した小唄教室のおさらい会が四月二十一日に行われた。栄紀衛さん率いる小唄教室は、平成二十八年五月、二十九年二月、三十年四月と、毎年練習の成果を披露している。

今回は、男性の生徒さんも加わり、七人が日頃の成果を発表した。

オープニングは、長唄の「あやめ浴衣」の前弾き(前奏)を女性六人で華やかに演奏。その後は、小唄の曲目を二人一組で糸(三味線)と唄に分かれて演奏した。また、三人一組で大正時代に作曲された長唄童謡にも挑戦。最後は、師匠・栄紀衛さんの弾き唄いの後、再び六人が登場し、「あやめ浴衣」の後半の一部を演奏して開きと納めた。

しっかりと小唄に加え、華やかな長唄もこなし、着実な成長ぶりを披露した。



豪華客船奮闘記〜縁の下の仲間たち⑧

「二人ももの外国人が来てくれるのだから、鳥羽で楽しい思い出を持って帰ってもらわねばー」。かどやスタッフのおもてなしの心に火が付いた。

カヨさんとチエミちゃんが中心となり、体験プログラムを練り、マップ作りの協力を公共機関に交渉して英文のななまちマップが完成した。手芸教室のヨシエちゃん、丹精込めた人形等を山のように作り、せつちゃんはその作品にせつせと値付けをし、二人で特設土産「ナー」を担当した。「コリンは常設の売店の商品におしゃれな英語のポップを作り、お琴の「ヤマ先生はイシちゃんと一緒に琴をかき鳴らし、邦楽の素晴らしさを伝えた。イシ」先生率いる茶道班は前日から会場作りをし、お点前の練習を何度も繰り返し、当日はツアー客にもお点前を体験してもらった。

五月十日は来場者が少なかったが、おもてなし心に燃えるイシ「先生は一人目の青年に「もう一回いかが?」と筋肉痛になるのではと周りが心配する程、何度もお点前の練習をさせてあげた。ユウジさんはビール箱を活用した臨時休憩所を設置し、わかりやすい案内板も作製した。SNSで豪華客船の乗客にかどやの魅力や英文で発信もした。スタッフの誰もがまるで学園祭を迎える学生の様にはいつと準備に汗を流した。

まだ来客は少ないが、皆の汗がいつの日か鳥羽の魅力の一助になればと願う。

《伊勢春慶に魅せられて》

三月の展示は、伊勢市在住の塗師・玉木さおり作品展だ。

伊勢春慶に魅せられた玉木さんは、漆の基礎を伊勢市産業漆センターの講座で学び、現在は同講座の指導補助も担当している。昨年四月には自身の工房「漆のぬし瓢」を伊勢市内に開設し、器や雑貨等の制作や、塗り直し等の修復を行っている。

かどやでの個展は、創作活動十年を記念して開いた。古い伊勢春慶の膳や重箱などを塗り直したものに加えて、錫の時絵の菓子盆や螺鈿細工を施したものなど、これまでに培ってきた様々な技法を駆使した作品が並んだ。

伊勢春慶は、かつては日常品として使われ、江戸時代にはお伊勢参りの土産とし全国に広まったが、プラスチック等の



普及により一時途絶えたこともある。玉木さんは「伝統ある漆器を是非日常生活に取り入れてほしい」と話している。

《三十五年間の集大成》



明和町在住の奥浦愛子さんの「パッチワーク・ハワイアンキルト展」が四月に開催された。

若い頃から手芸が好きだった奥浦さんは、ハワイアンキルト作家のキャシー中島さんの作品に感銘を受けて以来、ハワイアンキルトにのめり込み、現在は教室「キルト愛」を主宰してハワイアンキルトの魅力を伝えている。

会場には、ニメートル四方の豪華なハワイアンキルトをはじめ、ステンドグラスを思わせる作品や、百一首やお伊勢参りをテーマにした日本的なパッチワークのタペストリー等々、三十五年間にわたる力作約八十点が並び、「すごいわ！」と観客のた



め息を誘った。

時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設備 利用料
	10時～12時	13時～16時	10時～16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,000円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

◆◆◆貸部屋の案内◆◆◆
かどやを有効にご利用いただくこと、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などに活用ください。詳細は、かどやへ。
電話〇五九九―二五―八六八六

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された利用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

かどや保存会 平成31年度会員募集中!

かどや保存会は、歴史的文化財である「鳥羽大庄屋かどや」の保存ならびに効果的な活用・運営をめざして活動を続けており、当会を支援して下さる会員を募集しています。

お陰さまで平成30年度は351名の方にご登録いただき、31年度もすでに176名のご登録をいただいています。今年度も一人でも多くの方々に楽しんでいただけるよう、スタッフ一同精進してまいりますので、引き続きご登録・ご支援くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成31年度(平成31年4月1日～令和2年3月31日)の年会費(1口2,000円)は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入してください。

- (1)手渡し：かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。
- (2)銀行振込：郵便局 普通 かどや保存会 〇〇八五〇-4-151751